

井原市公共交通会議（令和 6 年度第 1 回）議事録

と き 令和 6 年 5 月 20 日（月）

10：00～11：30

ところ 井原市民会館 鏡獅子の間

1. 開 会

会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 26 名中 19 名（内代理出席 1 名）

2. 委嘱状交付

- ・ 委員の異動について報告

3. 大舌市長あいさつ

4. 役員選出

- ・ 大舌市長を会長、橋本委員を副会長、佐藤委員と池上委員を監査委員として選任

5. 協 議

1) 令和 5 年度井原市公共交通会議事業報告について

2) 令和 5 年度井原市公共交通会議歳入歳出決算について

- ・ 事務局より資料 1, 2 について説明

（会長） 監査結果について報告をお願いしたい。

（委員） 適正に処理されていることを報告する。

（会長） 令和 5 年度井原市公共交通会議事業報告及び令和 5 年度井原市公共交通会議歳入歳出決算について承認しても良いか。

【1）、2）事業報告、歳入歳出決算承認】

3) 令和 6 年度井原市公共交通会議事業計画（案）について

4) 令和 6 年度井原市公共交通会議予算（案）について

- ・ 事務局より資料 3, 4 について説明

（委員） 今年度実施する市民アンケート調査について、どのような対象者を想定しているのか。

（事務局） 市民アンケートの対象者については令和元年に実施した前回調査と同様に、15 歳以上の市内在住者を予定している。配布する世帯数等の詳細は今後検

討を進めるが、しっかりと市民の皆さんの意見が把握できるようにしたい。調査票の内容については前回調査を踏襲しつつ、現状にも即した質問を設定したいと考えている。

(会長) 市民アンケート調査の実施に向けては 8 月の公共交通会議にて、調査票の素案についての協議を予定している。

(委員) 昨年度はあいあいカーに関する説明会を地域単位で実施してもらい良かった。地域の外まで出かけることが負担になる高齢者もいるため、引き続き今年度も昨年度の実績を踏まえた上で説明会の回数や場所等を検討し、地域に出向いて開催してもらいたい。

(委員) アンケート調査等の結果は一般の方と公共交通利用者で乖離していると思われるので、全く利用していない人の意見を把握するよりも、バスの車内で簡易的なアンケートを実施する等、実際に利用した方の意見が把握できる方法を検討してもらいたい。また、あいあいカーの運賃を値上げしてでも運行範囲を広げてほしいという声を聞いており、負担の面を含めて、事業者、利用者、行政のみんなで支える体制を考えていくことが重要だと思う。

(事務局) 前回会議でも議論にあったが、実際の利用者の声を把握することが重要であるため、フォローアップ調査ではご意見等も参考に公共交通利用者を対象とした簡易的なアンケート調査を実施したいと考えている。

(委員) 令和 7 年度は次期地域公共交通計画の策定を進めていくと聞いたが、団塊の世代の高齢化により公共交通の需要が高まることも考えられるため、市民アンケート調査でも実態等を把握してもらいたい。また、井原市では DX の推進も努めており、デジタルツール等を活用すればアンケートの回答率も上がるのではないかな。

(事務局) デジタルツールを活用しながら多くの回答が得られるように努めたい。具体的には、QR コードを調査票に記載し、ネットからも回答できるような工夫をしたいと考えている。

(委員) 今年度は公共交通や事業に対して大きな変化はなく、取組を着実に実施していくことになると思うが、そのような中で公共交通に関する情報の周知が重要である。関連して資料 3 の 9 ページに SNS 等を活用した情報発信とあるが、具体的に何を発信し、受け手としてどの程度の人数がいるのか教えてほしい。あわせて、毎年度実施しているフォローアップ調査についてもサンプル数の確保に課題があり、そのような調査に活用できる可能性があるか知りたい。

昨年度事業の確認となるが、イベント会場等までの公共交通での行き方等の情報発信は実際にできているのか。

また、バス停サポーター制度の運用開始時期や現在の実績を知りたい。

(事務局) 井原市の LINE 公式アカウント登録者数は約 3,200 人で、イベントの告知や市役所からの情報発信に活用している。このアカウントにアンケートの機

能を持たせることは難しいが、発信したメッセージの中にアンケートに繋がるリンクを掲載することは可能であるため活用を検討したい。

イベント等での公共交通の行き方については各施設のホームページに掲載しており、配布するチラシに対しても公共交通の利用案内の掲載を依頼している。

バス停サポーター制度については、平成 28 年度から周知しており、近年の新設はできていないが現在は 14 基設置している。今後も更新等も含めて取り組みの継続を予定しており、あわせて新たに設置できる場所や施設等があるか確認したい。

(委員) 井原市の LINE 公式アカウント登録者数が多いことから、日常的な移動の実態を把握するアンケート調査等にも活用できるのではないと思われる。公共交通の行き方に関連して、市役所のウェブサイトを確認したが、公共交通でのアクセスの記載は分かりにくいので、最寄りのバス停名等が記載されていれば良いと思う。

バス停サポーター制度については、地域の人々との対話や協力を得るためのきっかけとして重要な制度だと思う。積極的に活用してほしい。

(委員) 出前講座について、美星地区ではどの単位で実施しているのか。あいあいカーの使い方がわからない人もいるのでこまめに実施してもらいたい。

(事務局) あいあいカーの運行開始時にあたっては自治会単位での周知や出前講座の案内もしていたが、昨年は民生委員会の会合で説明会を実施した。今年度については更に小さい単位での周知や案内等を検討したい。

(委員) あいあいカーの利用状況について教えてほしい。

(事務局) 令和 5 年度におけるあいあいカーの芳井、美星地区を合わせた実績について、運行回数は 2,900 回、利用者数が 3,760 人である。令和 4 年度と比較すると運行回数、利用者数ともに 1.2 倍程度増加し、運行開始から徐々に利用が増えている。

(委員) 商工会議所からも企業に対して最寄りバス停や駅から何分かかかるかウェブサイト等への記載を依頼しているので、再度念押ししたい。

(委員) 美星地区から井原市中心部までの運賃について、路線バスだと 500 円、あいあいカーだと 800 円かかるが果たして妥当な金額なのか。

(事務局) あいあいカーの運賃設定については、運行開始前に検討した結果、距離や利便性の面から路線バスより少し高い金額に設定している。

(委員) 路線バスもあいあいカーと同様に補助金によって運行しているので、現在の運賃が適切であるか検討をお願いしたい。

(会長) 令和 6 年度井原市公共交通会議事業計画（案）及び令和 6 年度井原市公共交通会議予算（案）について承認いただけるか。

【3）、4）協議事項承認】

5) その他

(委員)

本日の会議に参加して、委員の皆さんが本気で地域の公共交通について考え、議論していると感じた。そのような中、コロナ禍を経て運転者不足等、公共交通の運行事業者者の皆さんは非常に厳しい状況に置かれており、中国運輸局としても次期地域公共交通計画においては人材確保に関する視点を加えてもらうよう検討をお願いしたい。

(委員)

運転者の年代構成は、50～60 歳代が多くを占めており、20～30 歳代の運転者はほぼいない状況が続いている。また、定年退職後に勤務する人が多いため、運転者の平均年齢が上がっており、継続的な運転者確保が厳しい状態となっている。二種免許取得費用については行政からの補助もあるが、労働時間の規制も影響し、収入面で若い世代に魅力がある業界となっていない。

路線バスは補助金を受けながらの運行で黒字を出すのは難しい状況ではあるが、運行事業者としては地域の足を守ることとあわせて雇用した従業員の生活を守るという使命を担っている。井原市は運転免許証を返納しても移動できるまちづくりをするのであれば、目標をしっかりと考えながらこの公共交通会議で議論していきたい。

また、旅行に関しては需要が回復してきており、大手旅行会社からの仕事を請け負っている中、岡山県内の観光地、島根県や鳥取県等まで観光客を運んでいるが井原市は素通りの状態である。今年の 12 月には市内で新しい宿泊施設も開業するため、井原市に宿泊してもらい外貨が落ちていくよう、観光部門とも協力していきたい。

(委員)

2024 年 1 月に運転者不足によって、笠岡市内線の一部を減便しているが、運転者不足はなかなか解決しない問題であり、運転者は拘束時間が長く、休みも少ないので若い世代の成り手が非常に少ない。今後は労働時間の規制によってさらに厳しい状況となることが予想される。また、公共交通を維持していくことが大前提であるが、コロナ禍等の影響により生徒がバスから他の交通手段にシフトするとバスに戻ってこないという状況もある。そのような中、継続的に利用促進策を企画しており 5 月にはこいのぼりバスを運行した。また、昨年から Google マップの経路検索にリアルタイムで対応できるようになり、これらも活用しつつ利用増に繋げていきたい。

(委員)

井原市では 10～15 分程度の待ち時間でタクシー利用でき、メディアではタクシー不足と言われているが、運行体制は整っているのでは是非利用してもらいたい。井原市では金曜日と土曜日の夜間にタクシー台数が足りていないというデータもあるが、現時点ではあいあいカーも遅れもなく運行できているため、ライドシェア等を検討する必要はないと考えている。ただ、運転者の高齢化は進んでおり、特に若い人材の確保は必要であるため、公共交通会議を通じて関係者間で協力していきたいと考えている。

(委員)

運転者不足が大きな課題となっており、二種免許取得の補助制度等はある

ものの運転者の成り手がいない状況にある。また、タクシーは需要が多い時間帯に合わせて運転者のシフトを調整しており、閑散時間帯には運転者が余ってしまっている。そのような中、需要に応じて料金を上げたり下げたりする「ダイナミックプライシング」の検討・導入が全国的に進んでおり、このような仕組みも積極的に取り入れて、収益性を向上させる方法を考えていきたい。

(委員) 井原鉄道は開業 25 周年を迎え、日頃からの支援に御礼申し上げる。鉄道においても人手不足が大きな課題となっており、現在、井原鉄道では線路の維持を 5 名、12 両ある車両の整備を 3 名で担っている。これらの仕事は高度な技術が必要で技術継承に時間がかかることもあり、次の世代を担ってくれる人材の採用が急務であるが、技術系の求人は様々な企業で取り合いとなっている状況で、福利厚生等の面から不利な競争を強いられている。このような課題があるという現状を認識してもらいたい。

(委員) 運転免許証返納の件数は日平均 3 件程度で、その理由について、家族の勧めが最も多く、次いで身体機能の低下になっており、日常的に車を運転しないから運転免許証を返納する人は少ない。また、井原警察署管内の交通事故の 4 割が高齢者による事故で、車がないと不便ということもあり、本人の意向から家族も運転免許証返納を促さなかった結果、交通事故によって人を傷つけてしまい、高額な賠償が発生するケースもある。このことから運転免許証を返納しても生活に困らないような環境を作っていくことが重要であり、公共交通会議や各交通事業者の活動が素晴らしいと感じている。公共交通マップも非常にわかりやすいので積極的に周知してもらいたい。

5. 閉会

(委員) 井原市公共交通会議は委員の皆さんが積極的に意見を出しており、非常に良い雰囲気だと感じている。今年度の事業について事務局から提案があった内容を着実に進めてほしい。以前行った研究では、運転免許証の返納は公共交通の環境が整備されていないと進まないという結果も得ており、公共交通マップを見るとサービス水準が低い地域も存在しているため、多くの自主返納者は家族に促されて仕方なく運転免許証を返納している実態だと思われる。このような中、あいあいカーは課題解決の突破口として期待できるので、引き続き各地域での周知や PR お願いしたい。また、井原地域についてもあいあいカーの導入について検討を進めてもらいたい。

以上